

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	野田 和里
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Preprocedural Controlling Nutritional Status Score as a Predictor of Mortality in Patients Undergoing Transcatheter Mitral Valve Repair – A Single Center Experience in Japan – （経カテーテル的僧帽弁形成術を受ける患者における術前死亡率予測因子としての CONUT スコアの有用性-日本における単一施設の経験-）
	掲載誌 Circulation Reports 2023; 5: 442-449.
	主査 曾根 正勝 副査 縄田 寛 副査 横田 健一
〔論文の要旨・価値〕 経カテーテル的僧帽弁形成術 (Transcatheter edge-to-edge mitral valve repair:TEER) は至適薬物療法後の重症機能性僧帽弁閉鎖不全症患者に対する第一選択の介入治療となっている。TEER 後の死亡リスク予測スコアとして MitraScore があるが、栄養状態が死亡率に影響を与えるかについての研究はほとんど無い。本研究では、TEER を受けた患者における予後予測においてアルブミンとリンパ球数と総コレステロールから算出される栄養指標である Controlling nutritional status (CONUT) スコアの有用性を検討した。2018 年 4 月から 2021 年 4 月までに聖マリアンナ医科大学病院で MitraClip™ システムを用いた TEER を受けた 148 例を後ろ向きに解析した。主要アウトカムは全死因死亡率とし、術後 1 年間の死亡率と心イベントの発生率を解析した。CONUT スコア 5 以上の群は 4 以下の群と比べ、術後の死亡、心血管死、心不全による入院の発生率が有意に高かった。Kaplan-Meier 曲線では、全死因死亡率は CONUT スコア 5 以上の群で 4 以下の群と比べ有意に高かった。患者を CONUT スコアによって 4 群に分けたところ、CONUT スコアが高くなるにつれ、全死因死亡のリスクは高まった。Cox 比例ハザード解析では、CONUT スコアと全死因死亡は有意に相関していた。栄養不良が TEER を受けた患者の全死因死亡率と関連していることが示され、術前の栄養状態の評価の重要性が示された。	
〔審査概要〕 主査、副査 2 名と陪席者 2 名のもとで行われた。約 20 分間のプレゼンテーションでは、研究対象となる疾患の背景の説明を含む研究結果とその意義について説明された。約 60 分間の質疑応答では、僧帽弁閉鎖不全症についての基礎的知識、経カテーテル的僧帽弁形成術の適応、その合併症の種類と頻度、用いた統計的手法、結果の解釈、CONUT スコアと他の栄養指標との比較などについて質問がなされ、概ね適切に回答された。今後の研究成果の活かし方や展望についても意欲が示された。	
最終試験結果の要旨	
〔研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価〕 申請者は、本研究と関連領域に関する十分な専門的知識を有しており、研究目的やその意義についても良く理解していた。研究発表、質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、礼儀正しく、研究や臨床に対する熱意も感じられた。英語読解力は指定された引用文献の要旨をその場で和訳し、一定の読解力があると判断した。以上より、野田和里君は学位授与に値すると評価した。	